

「仮想浸水」ARで体験

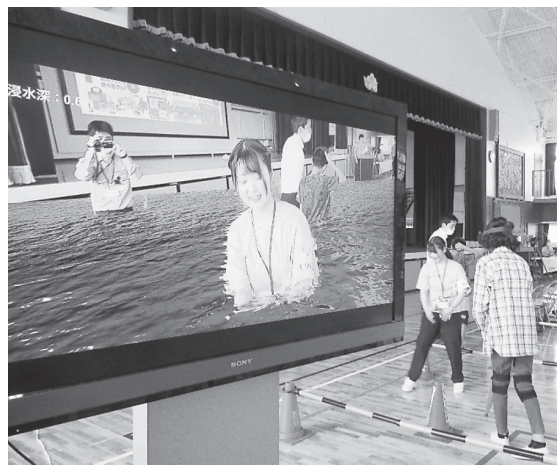
鎌ヶ谷・南部小

NTT東特別授業 防災意識高める

鎌ヶ谷市立南部小学校（小川宏宜校長）で、児童に災害への意識を高めてもらうと、NTT東日本千葉西支店が特別授業を開いた。三つの川に囲まれ水害の多い地域事情を踏まえ、AR（拡張現実）体験用の専用ゴーグルをつけた児童らは体育館内が浸水していく「仮想現実」を経験。一歩ずつ注意して避難するように訓練した。



「ARゴーグル」をつけ、傘で前方を探りながら歩く児童ら＝鎌ヶ谷市



「ARゴーグル」をつけて歩く児童（奥）が見ている映像を映し出したモニター（左）

防災授業に力を入れる同支店が6年生32人を対象に実施した。児童らは、10年前の台風の際に発生した浸水被害について地元自治会長からオンラインで説明を受けた後、浸水した体育館内を注意して歩く「体験授業」に挑戦した。

ARアプリ入りスマートフォンを装着した専用ゴーグルを通じて見えるのは床上60センチまで浸水した館内の危険な様子。水の中を転ばず歩こうと、児童らは傘で床をトント

ンと突いて障害物の有無を確認しながら、5メートルのコースを踏みしめるように歩いた。ゴールまで歩き終えようと、どの児童も「やった」と笑顔を見せた。男子児童（11）は「水がどんどん増え、怖かった。災害への備えが大事と思った」と話した。

担当した同支店設備部の今井寛人課長は「子どもたちの喜ぶ様子を見てうれしかった。地域の特色に合った防災教育を拡大していきたい」と意欲を見せた。

『千葉日報』2023年6月26日付4面